

余白は3cm以上

立会場所・土地の地番	土地所有者 住所 氏名	立会年月日	承諾年月日
国立市青柳三丁目 34番2	国立市谷保〇234番地 国立 太郎	令和3年 8月25日	令和3年 9月6日
国立市青柳三丁目 34番1, 34番3, 35番	立川市錦町〇-〇-18 立川 花子	令和3年 8月25日	令和3年 8月27日
国立市青柳三丁目 36番1	札幌市中央区北4条西〇丁目5-1 大通 樹	令和3年 8月26日	令和3年 8月26日

土地所有者一欄作成の注意事項

- ◎ 立会場所・土地の地番（謄本上の記載）、住所、氏名、立会年月日、承諾年月日は、漏れなく記入する。
(図面作成者が記載すればよい。関係者自署の必要はありません。)
- ◎ 承諾年月日は、別途承諾書に本人が記名押印した日とする。

実測図（下図）提出の注意事項

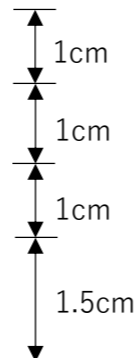
- ◎ 下図は、別途承諾書に記名、押印する前の本図の写しをもって下図とする。
- ◎ 本図を提出するときは、必ず下図を持参する。
- ◎ 実務取扱いは、下図に計算値小数点以下第3位までを()に記入して提出する。
なお、計算表がある場合は提出する。
- ◎ 石標・プレート等の形状を記入する場合は現形を記入する。

作成者	東京都国立市富士見台二丁目100番地の1 国立測量株式会社 代表取締役 青柳 二郎 土地家屋調査士 青柳 三郎 登録第0000号 測量士 青柳 四郎 第H14-0000号
	測量年月日 令和3年8月26日

◎ 測量年月日は最終の立会日以降、かつ、最初の承諾日以前の日とする。

余白は3cm以上

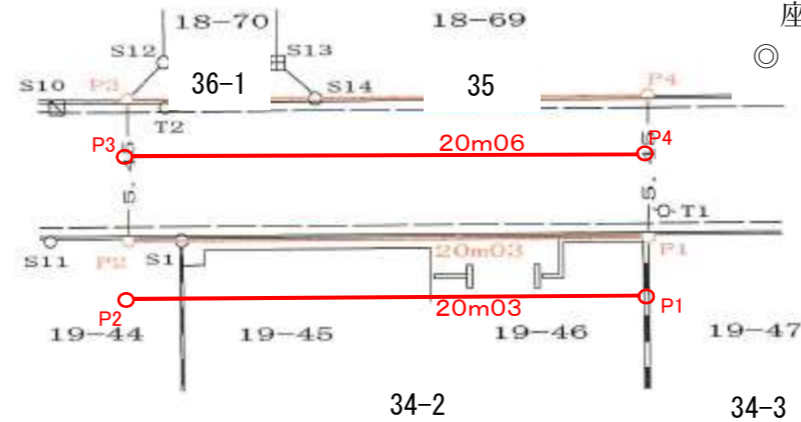
凡	○ P _n	境界点
	S _n	引照点
	○ T _n	機械点
例	○○m○○	境界辺長



土地境界図	縮尺
土地所在地番 国立市青柳三丁目34番2ほか	1/250

表題部作成の注意事項土地境界図の書き方

- ◎ この欄は、実務取扱者が記載する。
- ◎ 承諾した土地所在地番が複数ある場合は土地境界図の書き方「ほか」を忘れずに書くこと。
- ◎ 隣接市を含む土地境界図はそれぞれの土地所在地番を記載する。
複数の丁目、字等を含む場合も同様とする。



	X	Y	備考
P1			市石 田
P2			市鉄
P3			市プレート 田
P4			みかげ石 田
S1			家屋角
S2			ブロック塀
S3			みかげ石
T1			鉄
T2			鉄

座標系：任意座標系
縮尺係数：1.000000

座標欄作成の注意事項

- ◎ 石標・プレートの形状は現形を記入する。

余白は3cm以上

実測図作成の注意事項

- ◎ P点、確定延長数字、確定線は、朱色で作成し、それ以外の部分は、黒一色で統一する。
また、凡例欄内についても同様とする。
- ◎ P点は、一重丸で統一する。
- ◎ 公図と現地が違う場合は、上段に公図上の地番を、下段に承諾番地を()で表示する。
- ◎ 複数の丁目、字等を含む場合は、それぞれの丁目、字等を記入する。
- ◎ 石標・プレート等の形状を記入する場合は現形を記入する。
- ◎ 文字・数字の大きさは縦横2.2mm以上で鮮明に読めるように記入する。
- ◎ 凡例は、実務取扱者が記載する。

余白は3cm以上

国立市公共用地境界図

国立 R3第1号			
申請地番	国立市青柳三丁目34番2 34番1, 34番3, 35番, 36番1		
申請者	国立 太郎		
立会年月日	令和3年8月25日 令和3年8月26日	確認延長	40.09 m
確認年月日	令和 年 月 日	縮尺	1/250
備考			